

2020年度 自己評価結果公表シート

大谷さやまこども園

1 本園の教育目標

「子どもたち一人ひとりにありがとうの心が育つ教育・保育を目指す」

ともに生きともに育ちあう真宗保育を柱として自分を大切に、共に育ちあう教育・保育を目指す。

「ほとけの子、やさしく、かしこく、元気よく」をモットーに

- (1) 命を大切に思いやりのある優しい子(宗教的情操教育)
- (2) 創造力豊かな子(創造の芽を伸ばす教育)
- (3) 節度ある態度と協調性のある子(社会性を養う教育・保育)

2 取り組む目標・計画

乳児から5歳児までの連続した成長発達をふまえ、子どもに肯定的なまなざしを向けながら、それぞれが育とうとしていることを支える教育・保育を実践していく。

本年度乳児部は「生活習慣を基礎に年齢にあった基本的な身の回りのことができるようになる」事を目標に計画をたて保育を行ってきた。幼児部は「自然とかかわって遊ぶことで自ら考えようとするきもちをもつ」を年間のテーマに園児の教育・保育を行った。

教育・保育要領を基に設定した評価項目に沿った自己評価を行うことによって、教職員自らが客観的に自園と自己を見る目を養い、教育内容の改善に自主的に取り組んでいく。また、保護者の視点に留意し園児の感想を加えて子どもたちの育ちを確認していく。

3 評価項目の達成及び取組状況の結果

表1

評価項目	結果	取組状況
教育目標・教育・保育方針の理解	B	園の目指す幼児の姿を理念・方針に見出す
教育・保育課程	B	教育目標を生かして作成されている
指導計画	C	学年・園全体での話し合いがある
教育環境①学園の施設や自然の利用	B	定期的に学園施設の見学
教育・保育環境② 園児の活動空間	B	園児の興味を取り入れる
教育・保育環境③ 園内の自然環境	A	園内の自然環境を保育に取り入れる
教育・保育の内容①	B	園の教育・保育方針を基に作成
教育・保育の内容②	B	食育活動を行う
教育・保育の内容③	B	幼小接続が円滑に行われている
教育・保育の方法	A	遊びを通して学びや経験を積む
保育教諭の役割①	B	園児の発達段階に応じた教育・保育の実践

保育教諭の役割②	B	一人ひとりを受けとめる保育
保育教諭の役割③	A	全ての園児に平等に接する
保育教諭の資質向上①	A-B	専門知識や技能を身に付ける研修
保育教諭の資質向上②	B	研修の成果を保育に活かす
保育教諭の資質向上③	B	教材の有効利用
特別支援教育①	A	支援を必要とする子に対しての園内での共通理解
特別支援教育②	A	臨床心理士を交えての園内研修
特別支援教育③	B	支援教育の研修会勉強会参加
保護者との連携①	C	園の行事への積極的参加
保護者との連携②	B	保護者からの意見や要望への対応
保護者との連携③	A	個別懇談
子育て支援①	A	保護者からの相談に対応
子育て支援②	A	預かり保育の実施
子育て支援③	A	子育て・教育相談の専門職の配置
子育て支援④	B	保護者へ協力が必要な場合の園長との協議
虐待防止①	B	園児の心の状態の把握
虐待防止②	A	園児の身体の観察と把握
虐待防止④	B	園児の心身の状態に疑いのある時は園長に相談する
健康管理①	A	健康診断の結果を保護者に伝える
健康管理②	A-B	感染症が蔓延しないような手立てをとっている
健康管理③	A	日々の健康状態の把握と対応
守秘義務の遵守①	A	個人情報の管理
守秘義務の遵守②	A	保護者からの苦情があった場合園長に連絡・相談する
守秘義務の遵守③	A	クレームがあった場合、園長に報告・相談・連絡をしている
運営管理①	A	現金の管理は適切である
運営管理②	A	園内での役割が分っている
運営管理③	B	園内での仕事の分掌が決まっている
学園グループとの連携・交流①	B	幼児教育コースの学生との交流が保育に活かされる
学園グループとの連携・交流②	B	学園グループの教員・学生との交流活動が盛んである
学園グループとの連携・交流③	B	教員の研究教育を学ぶ機会がある

4 園児の一年の振り返りと出展作品

① 年長児の一年の振り返り

コロナ禍にあつて子どもたちが元気に登園したことを評価したい。家庭保育協力日などを除く登園日を皆勤した園児は13名/44名中 であつた。

表2 年長児の出展作品

大谷保育協会報恩講絵画展 5名入選 第56回全大阪幼少年児童美術展 特選 1名 なにわ建築フェスタ児童画展 特選1名 入選2名 佳作1名 努力賞4名
--

5 具体的目標や計画の総合的な評価結果

結 果	理 由
① 総合評価 B	昨年度の最終時期からの新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、子どもたちの活動が制約された環境にあつて出来るだけの保育教育環境を整えて取り組んだことは評価できる。幼児部は園内研修を重ねて、教育内容について担任で取り組み意見を出し合いながらお互いに評価しながら内容を練りあげてきた。教育目標・方針に A 評価となつた。これからは保護者との連携や子育て支援の大切さを理解する研修も必要である。

A: 十分達成されている B: 達成されている C: 取り組まれているが、十分でない D: 取組が不十分である

6 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
①教育・保育要領の理解と保育内容の充実	園児に対して様々な取り組みを必要とする保育教諭数が増え、保育教諭の資質向上が何より大切である。次年度は乳幼児期の一貫した教育・保育内容を作成し、全保育教諭が相互理解を深めていくことが大切である
②安全環境・防災対策	健康と安全への配慮は高得点を示した。これは新型コロナウイルス感染症対策によって換気・三密を避ける・マスクの着用などの励行が求められる。また最低月に一度の防災訓練も続けること
③保護者による園教育・保育の満足度の把握	毎年暮れに全保護者を対象にアンケート調査を行っている。今年はコロナ禍に関する記述が多く出された。就労者が益々増加し、保育参観や保護者懇談会、後援会役員会開催の日程など生の声に耳を傾けることが今後の保育により重要となる。また、個々の子どもに対する親の思いに耳を傾ける必要もある。
④自己点検及び自己評価	評価項目は教育・保育要領の容から作成している。点検・評価の結果をもとに、個々の保育教諭の達成目標を立て

	る。また、教諭間の連携や園全体の課題を教育・保育要領の理解と保育内容の充実に生かしていくことが大事である。
--	---

7 2020年度学校(子ども園)関係者の評価

総合評価

<p>コロナ禍にあって全体として妥当な保育・教育及び運営がなされていると認められる。また、評価項目について、保育教諭が真面目に検討された様子がよくわかった。は就労形態や勤務時間が均一でないなどからアンケート項目の内容や回答数に工夫がみられたが、一つの園で子どもの教育・保育に関わっているという高い意識求められる。今後更に前向きな取り組みを期待する。</p>
--

具体的評価

	評価観点	評価結果
①	自己評価結果の内容について	教育・保育目標に沿って評価項目を設定し、一つ一つの評価項目について、保育教諭個々が達成状況を4段階による評定を行う方法をとるなど妥当性を確保するための望ましい工夫がされている。 評価内容はおおむね妥当と考える。
②	自己評価結果を踏まえた今後の改善方策について	今後の取り組むべき課題を4項目挙げ、具体的な取り組み方法を示すなど適切な改善策と方向性が示されている。安全環境に関する取り組みはこれからも必要となるであろう。
③	重点的に取り組むことが必要な目標や計画、評価項目について	教育目標に沿った分野に基づき、多くの評価目標を設定することで、保育教諭自らが客観的に自園を見る目を養うように配慮するなど、適切に計画されている。
④	こども園運営の改善に向けた取り組みについて	一人ひとりの保育教諭が自分の役割を心得て園の運営に関わる意識をもっと高めることが緊急の課題であろう。全体の研修を重ねることである。また、雇用形態に非常勤勤務者が多いことは問題である。教育・保育課程の編成や教育指導計画の作成に取り組むべき内容が明確に示されている点は評価に値する。また、同様の内容の質問を保護者と保育教諭に提供することで双方の考え方が分かったことは今後の運営に大いにプラスとなるであろう。

2020年度 大谷さやまこども園評価委員会委員名簿

令和2年10月1日現在

名 前	所 属 等
堀内 一憲	大阪狭山市立西小学校校長
井上美智子	大阪大谷大学教授、幼児教育実践研究センター長
富永 真史	大谷さやまこども園教育後援会会長